運営ボランティアより
（編集後記にかえて）

●今回の丸博企画展は、計画段階から関わる人々の想いがどんどん膨らみ、そのバブル気味な状況に「本当に実現出来るだろうか？」と懐疑的に感じる面もあった。しかしながら、前日の準備作業に集うボランティアの人々が主体的になって、展示・講座・ツアー等のそれぞれに、各々の力を発揮し英知を結集する工程に触れ、自分の浅はかな憂慮を恥じる反面、感動さえ覚えた。充実した素晴らしい企画展を展開できたと思う（皆様お疲れ様でした）。ただ、そういった人々の力が結集した「作品」が出来たにも関わらず、周知面では課題を残し「来訪者数」については、十分な成果が得られなかったのではないだろうか。今後、同様の企画を開催する場合は、より多くの来訪者獲得を目的とした、口コミや関係団体、教育機関への個別事前プロモーションが必須と感じる。

●『エコミュージアムらしい展示とはなにか』という命題に対し、１つの答えが見えた企画でした。
　博物館展示の主役は展示物であり、そこには伝えるべき明確なテーマが存在していますが、エコミュージアム展示の主役は鑑賞者（と市民学芸員）であり、そこには決まった答えが存在せず、展示物は”人と人とをつなぐきっかけ”であったように思います。
　また丸ごと博物館の拠点として、新しく専用のハコモノを作るのではなく、既にある空間を拠点化したという点も、まさに丸ごと的であったと思います。

●良く出来たと思います。但し、会期中はきつかったというのも正直な気持ちです。
　年２回ある基礎講座の価値を改めて認識しました。基礎講座の受講生の助けなしには成功しなかったのではと思います。
　市民講師の話はこう言う機会がなければ聞けなかったし、またその講師の発表の場もなかったと思います。同じような企画の時は市民講師の発掘を優先すべきではないでしょうか。
　市の広報は一部の人しか見てないのではと思いました。私も熱心な読者ではありません。市民に知らせる効果的な方法も考えるとよいのではないでしょうか。

●丸ごと企画展の評価項目に沿った感想ですが、企画展の目的、内容、推進体制もとても良かったと思いますが、講座について、夜の開催は、仕事帰りの人達にも参加してもらいたいという事でしたが、ボランティアの人達の参加が難しい事も考えると、日中だけでも良いかなと思います。
　また、サポートの我々も、できれば講座もまち歩きもどちらも参加したいと思っていましたので、企画展の後に、まち歩きを計画してほしいと思います。
　あと、写真展はアトランダムですが、いろいろな場面、時間、一緒に行った人達との思い出等、それぞれの人達の中での創造性を掻き立てるようで、とても良かったと思います。

【お詫びと訂正】
　企画展「期間限定！丸博センターへようこそ！」を特集した、広報ちがさき１月１５日号挟み込み版にて、「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会（旧土曜会）」の設立時期について、誤解を招く表記がありました。
　同会は、平成２０年９月に設立され、まち歩き事業や講演会事業を中心に、茅ヶ崎の都市資源を調査研究し、その魅力を発信する取り組みを行っています。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？　茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、「このまち」らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、茅ヶ崎を改めて知り、茅ヶ崎を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかけがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

発行・編集　　ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト　広報部会　（印刷協力　湘南ちがさき屋）
〒253-8686　茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1　茅ヶ崎市教育委員会教育推進部　社会教育課文化財保護担当・社会教育担当
Tel 0467-82-1111　　E-mail: shakaikyouiku@city.chigasaki.kanagawa.jp

屋根も壁もない・・・市内が全部博物館・・・

ちがさき丸ごと博物館
ふるさと発見

第27号
2016. 4. 1

（愛称は「ちがさき丸ごと博物館」）

平成 27 年度企画展
「期間限定！丸博（まるはく）センターへようこそ！」開催報告号

　平成 28 年１月 28 日（木）～２月１日（月）までの５日間、茅ヶ崎市民ギャラリー４階・５階を会場に、平成 27 年度ちがさき丸ごと博物館企画展「期間限定！丸博センターへようこそ！」を開催しました。
　市民ボランティアがてづくりで構築した、未来を描くエコミュージアム拠点。その実証実験の成果を参加者の「生の声」で報告します！

市民ボランティアてづくりの拠点実験を終えて

　『ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業には、活動の中心となる拠点を設けます。拠点では、さまざまな情報発信、資料の保存、都市資源に関する調査研究や展示などを行い、市民や各種団体と結びつけます』。
　平成１８年４月に市で発行された「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の指針」には、取り組むべき施策として、そのように述べられています。
　今回の企画展「丸博センター」は、その記述を市民が具現化する取り組みでした。
　期間限定でしたが、世代や住まう地区、関心のある都市資源のジャンルを超え、これまで出会わなかった市民や各種団体同士がつながり、結びつき、新しい何かが生まれる予感をさせるシーンがいくつもありました。
　ちがさき丸ごと博物館が、今の時代に生み出す「豊かさ」を、確かめることができた「丸博センター」でした。

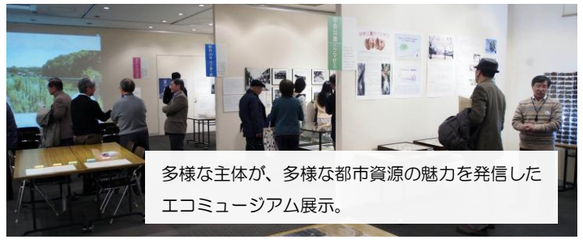
企画展「丸博センター」参加者アンケート自由記述から

「丸博センター」では、市民のみなさんが住まう茅ヶ崎を知ることができる機会として、「２つの展示」「１８の講座」「５つのまち歩き」を展開しました。
計 255 枚ものアンケートをいただき、たくさんのあたたかいご感想をいただきました。その一部を原文のまま、会場の様子の写真と運営ボランティアの感想とともにご紹介します。
今回の経験を糧に、これからも歩みを続けます。ご来場ありがとうございました。心より感謝いたします！

「ボランティアの皆さんが
実に生き生きと活動している。」

開幕に先立ち行われたレセプション。名誉館長である市長のごあいさつ。

市民ボランティアによる展示準備の様子。


多様な主体が、多様な都市資源の魅力を発信したエコミュージアム展示。

「茅ヶ崎という街、地域の素晴らしさ、凄さ、
友人に伝えたいと自慢したいと強く思いました。
丁寧な説明、そこに至るまでの研究、
作業に感謝です。
今後も新たな発見に期待して居ります。」

中央公園を中心に、市内でひと夏で採集したセミの抜け殻・約 6,000 個の展示は圧巻。

５日間、毎日違ったテーマのまち歩きを実施。「行ってらっしゃい！」と参加者の皆さんを見送ります。

「日常の生活の側に丸博が見られると思われ、いろいろ調べて企画された方々に感謝しています。又、もっともっと探せば面白い事が発見されると思います。
これは我々の「宝」ですネ。」

大人気だった「ちがさき丸ごと写真展。壁面いっぱいに並べられた写真に共通するのは、すべて「茅ヶ崎の都市資源であること」。

「よかった！素晴らしかった！
ポストイットの「参加型」もよかった。」

来場者がキャプションを書いたり、展示を通してたくさんの「交流」が生まれました。

定番の「丸ごと博物館講座」。１コマ 90 分を１日４本開講。

「次回はお手伝い側で
ボランティアに参加したいと思います。」

「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館をより多くの
市民に認知してもらうために、更なる継続した
活動を期待します。」

丸博の「理念」「活動」を展示した「16 のキーワード」。什器もてづくり。

夜、市民ギャラリーの窓に投映される動画のアイデアは大好評でした。

運営ボランティアより（編集後記にかえて）

●まちを屋根のない博物館と見立てて活動する丸ごと博物館でも活動拠点が必要と、つねづね私ども、「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会」の会員たちと話をしていました。しかし、これまで活動拠点の具体化イメージがありませんでしたが、今回この企画展で、丸ごと博物館で必要と思われる活動拠点機能（講座会場・活動展示会場・スタッフ事務工房など）の具現化を試行する機会を設けていただき、感謝しています。ご来場いただいた市民の皆様には丸ごと博物館の目指すものが全体の形としてご覧いただけたのではないかと思っております。朝９時から夜９時まで展開した企画展運営についても、ボランティア団体、個人ボランティア、市職員が一体となった推進体制で、事前準備から撤収まで無事完遂できたことは、今後、本活動を推進する上で大きな収穫になったと思っています。また今企画展では「講座―展示―まち歩き」と三位一体で連動させて展開しましたが、この形は参加者の方々から大変良い企画であったと好評を得、今後の方向性を確認できました。このように短期間に多くのことを試行した平成２７年度丸ごと博物館企画展は、ボランティア団体側としても収穫が多く、大変勉強になった企画展であったと思っています。この成果や課題を今後の丸ごと博物館活動に是非生かして行きたいと考えております。